

第二部 タベの演奏会「植物生態の音楽の共有へ」

鈴木理恵子（ヴァイオリン）+ 石川高（笙）による

「植物文様」デュオ・コンサート

植物の声から生まれた音楽、その響きと抑揚を味わう。
植物と人とのかかわりを紡ぐ。

日時：2007年3月2日（金）開場 18:00 開演 18:30

会場：サンレイクかすや 多目的ホール（粕屋町駕与丁1-6-1）

JR篠栗線 長者原駅より徒歩5分、駐車場あり TEL 092-931-3309

入場無料



【演奏】鈴木理恵子（ヴァイオリン） 石川高（笙） 【トーク】藤枝守、中司敬

【曲目】「植物文様」シリーズ（藤枝守作曲）から

- ・ヴァイオリン・ソロ・コレクション
- ・ヴァイオリンと笙のためのデュオ・コレクション no.1, 2, 3

「植物の声」を聴く。このような発想から生まれた装置があります。植物研究家でメディア・アーティストの銅金裕司が考案した「プラントロン」とよばれるこの装置は、植物の葉の表面から電位変化を採取し、その電位変化のデータをコンピュータ解析することによって、植物のリアルタイムの生体情報が明らかになります。まさに、この電位変化の軌跡のなかに「植物の声」を聴きだすことができるのです。《植物文様》という音楽は、この「植物の声」ともいえる電位変化をメロディックなパターンに読み変えていくことによって生まれました。

今回は、《植物文様》シリーズからヴァイオリンと笙のためのコレクションが演奏されます。笙は、日本の宮廷音楽である雅楽の中心的な楽器ですが、古代中国の響きを現代にいたるまで保持してきました。このような笙の響きのうつろいのなかで、植物の声に基づくさまざまなメロディのパターンをヴァイオリンがしずかに紡いでいきます。「植物のいのち」を耳によって、さらには、身体全体によって味わう機会となるでしょう。（藤枝守）

【経歴】



◆鈴木理恵子（ヴァイオリン）

桐朋学園大学にて篠崎功子に師事。新日本フィルハーモニー交響楽団副コンサートミストレスに就任。その後、渡米してJ.ギンゴールド氏に師事。CDは、ヴィヴァルディ「四季」、「夏の夜の夢」、「FROM・ジ・オリエント」など。既成概念にとらわれず他分野の芸術家達と積極的に共演するその活動は、各方面から注目を集めている。



◆石川高（笙）

笙を宮田まゆみ、豊英秋両氏に師事、雅楽合奏を芝祐靖氏に師事する。雅楽団体「俗楽舎」に所属。2002年ドイツのバンベルク交響楽団のヨーロッパツアーにて武満徹作品を演奏。2006年には、メキシコの作曲家、フリオ・エストラーダのオペラの主要な演奏者として世界各地を巡回。九州大学芸術工学部非常勤講師。



◆藤枝守（作曲）

カリフォルニア大学サンディエゴ校音楽学部博士課程修了。博士号(Ph.D.)を取得。作曲を湯浅譲二、モートン・フェルドマンらに師事。CDに《箏組曲～植物文様》《今日は死ぬのにもってこの日》など。著書に『響きの考古学～音律の世界史からの冒険』（平凡社ライブラリー）など。九州大学大学院芸術工学研究院教授。

